



東京大学デジタルアーカイブズ構築事業 公開コレクション

2019年11月
東京大学学術資産アーカイブ化推進室

この資料は、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業のうち、2017年度・2018年度に実施された主な事業の公開コレクションを紹介しています。

- 掲載している情報は、2019年10月末現在のものです。
- 公開コレクションの詳細について問い合わせをしたい場合は、各公開サイトに明示されているお問い合わせ先か、学術資産アーカイブ化推進室までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

東京大学学術資産アーカイブ化推進室（東京大学附属図書館総務課）

digital-archive@lib.u-tokyo.ac.jp

事業の最新情報はアーカイブズ構築事業のページをご覧ください。
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top>



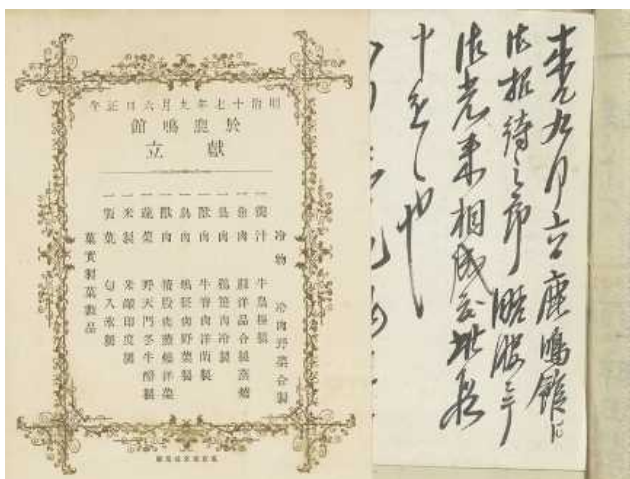


概要

・公開画像点数：101点

・公開日：2018（平成30）年8月6日

当コレクションは、幕末・明治期の役人で日本の博物館創設に尽力した人物としても知られる田中芳男（たなかよしお・1838（天保9）～1916（大正5）年）により収集・作成された資料群です。コレクションの中心をなす『拮拾帖』（くんしゅうじょう）には、商品ラベルをはじめ、田中の趣味・嗜好を反映した様々な収集物が貼り交ぜられており、まさに時代を映す万華鏡のようなコンテンツです。ほかにも田中がパリ万博などを視察した際の収集物大成『外国拮拾帖』や動植物の図版満載の博物百科『博物帖』など個性的なコンテンツが揃っています。



鹿鳴館献立表（『拮拾帖』第21冊より）

■ データベースのポイント！

『拮拾帖』には、田中が収集した雑多なものが所狭しと貼り込まれています。名刺、封筒入りの手紙、カタログなどの小冊子…。形態もバラバラ、時には立体物もある『拮拾帖』はカメラマン泣かせの資料だったと思われます。撮影に際しては「めくれるところは全てめくって撮影する」との方針で、原本の持つ情報を余すところなくお伝えできるように工夫しました。

■ 公開画像の紹介

・鹿鳴館献立表

1884（明治17）年9月6日に鹿鳴館で出された昼食の献立表です。田中は元老院議員も務めていましたので鹿鳴館など当時の社交場へも足を運んでいたようです。『拮拾帖』では明治天皇主催の観菊会への招待状なども見ることができます。「牛鳥極製」「野天門冬牛酪製」など今となっては内容の想像がつかない（？）献立を眺めながら、文明開化の時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



コレラ獣全図（『博物帖』より）

■ こんなときにご利用ください

『拮拾帖』をはじめとした当コレクションの魅力はなんといってもその雑多なところです。商品の引き札や領収書など生活に密着したものから田中の職務に関連するものまでが年代別またはテーマ別に並んでおり、明治期の世相を知るための一次資料として活用できます。また、カラフルなラベル類は見ているだけでも楽しめます。人や用途によってさまざまに利用できるのが当コレクションの最大の特徴だと言えるでしょう。

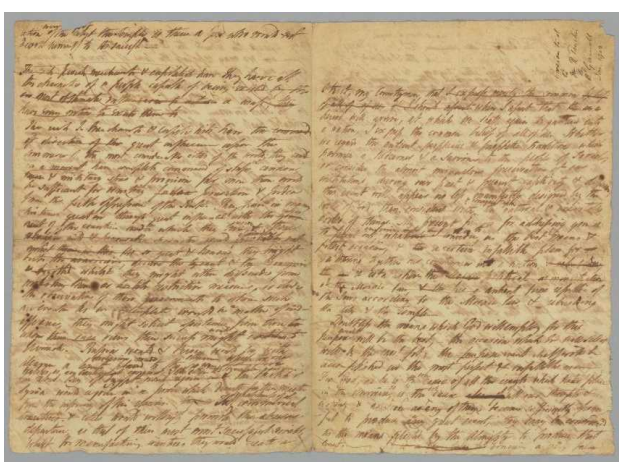


概要

総合図書館では「田中芳男・博物学コレクション」のほかにも魅力的なコンテンツを多数公開しています。地震や火山の噴火など自然災害に関する錦絵・かわら版を中心とした「石本コレクションII」、英国の詩人パーシー・ビッシュ・シェリー（Percy Bysshe Shelley, 1792-1822）の手稿「Fragment of an Address to the Jews（シェリー書簡）」などは2017（平成29）年のデジタルアーカイブ構築事業でデジタル化されました。また、併せて画像の二次利用条件の緩和や既存デジタル画像のIIIFサーバへの移行などにより、さらに活用されるデジタルアーカイブを目指しています。



鯨へのこらしめ（『石本コレクションI』より）



Fragment of an Address to the Jews
（シェリー書簡）

■ データベースのポイント！

デジタルアーカイブで公開された貴重な資料の数々は、その資料に関する解題があってこそ理解が深まります。「石本コレクション」、「田中芳男・博物学コレクション」、「Fragment of an Address to the Jews」等々、学内外の研究者の方々のご協力のもと詳細な解説が付されています。各デジタルアーカイブのデジタル画像と併せてお楽しみください。

■ 公開画像の紹介

・鯨へのこらしめ

1855（安政2）年10月2日の江戸大地震の際に作成された木版多色刷りの鯨絵です。図の右側では鹿島大明神が要石（かなめいし）で鯨を押さえつけようとし、左側ではこの地震で大きな被害にあった吉原の遊女や商売人たちが鯨に殴りかかろうとしています。それらを震災復興で思いがけず儲けにありついた大工や左官、僧侶が「まあまあ」といった仕草で取りなしています。

安政江戸地震を題材とした資料は「石本コレクション」全582点中244点と実に四割以上を占めており、当コレクションの特徴となっています。

■ こんなときにご利用ください

総合図書館ではデジタルデータのほとんどをCC-BY相当で公開しています。所蔵機関名および改変を行った際の明示のみで、営利・非営利を問わず広く利用いただけます。他機関での利用の一例として、2019（令和元）年7月に「石本コレクション」が「みんなで翻刻」プロジェクトの対象となりました。今後は従来の原本の代替物としての利用だけに留まらず、デジタルならではの活用のされ方が進むことを期待しています。



概要

・公開画像点数：17万5千点

・公開日：1997（平成9）年以降、順次

総合研究博物館は東京大学の創設以来、研究者が収集、使用してきた学術標本を350万点以上保管しています。自然史・文化史に関わるモノ資料を中心に、教材、分析機器、さらには校舎部材など大学史にかかわる物品等々、内容也多岐にわたっています。そのリストを公開するのが本データベースです。

現在、全学アーカイブ事業によって作成した約1万6千件をふくむ約27万件の学術標本情報が搭載されており、毎年更新されています。



東京帝国大学営繕工事記録写真帳

■ データベースのポイント！

各資料の情報は、できるだけシンプルなメカニズムで表現されており、Googleなどの多くの検索エンジンが認識しやすく、検索にヒットしやすい構造となっています。

また、情報の一部は当館が紙媒体で刊行する標本資料目録（2018（平成30）年度までに119冊を刊行）にも収録されているため、併用することで利便性が高まります。

■ 公開画像の紹介

・東京帝国大学営繕工事記録写真帳

本学施設部が保管していた帝国大学時代のキャンパス内工事記録。8,209点の写真が収められています。本写真は新宮直後の大講堂です（安田講堂、1925（大正14）年）。

・佐々木忠次郎関連の昆虫標本

佐々木忠次郎（1857（安政4）-1938（昭和13））は最初期の農学部教授として、黎明期の昆虫学、養蚕学を牽引しました。本学に残した昆虫標本は5万点を超えています。



佐々木忠次郎関連の昆虫標本

■ こんなときにご利用ください

総合研究博物館は学内の共同利用施設です。その収蔵標本を研究教育に活用したい時、検索してみてください。



概要

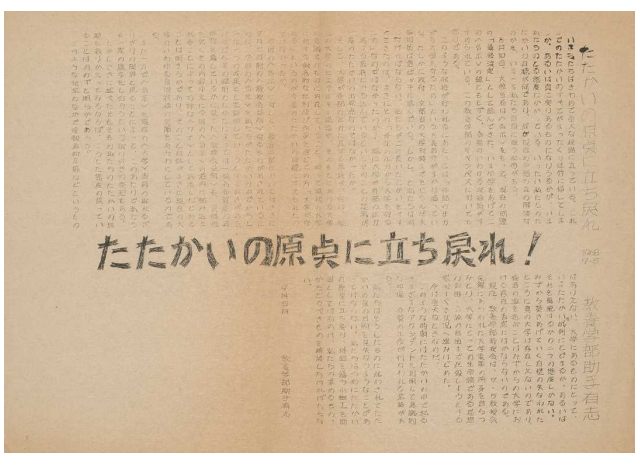
・公開画像点数：97,777点

・公開日：2018（平成30）年8月31日

東京大学文書館は、東京大学の歴史に関わる法人文書およびその他の歴史資料を管理・保存しています。この東京大学文書館デジタル・アーカイブでは、所蔵資料の目録を検索することができ、また一部の資料については画像データを閲覧できます。利用頻度が高い重要な資料について、デジタル化を進め公開していく予定です。



『米人モース氏帰国ニ付給料前渡ノ件』



『〔ビラ〕 たたかひの原点に立ち戻れ！』

■ データベースのポイント！

アーカイブズ学の知見に基づいて編成された資料群の構造を適切に表現するため、デジタル・アーカイブ上でも資料の階層構造を詳細に表示しています。キーワード検索だけではなく、階層をたどって目的の資料を探することができます。

■ 公開画像の紹介

・米人モース氏帰国ニ付給料前渡ノ件

1877（明治10）年10月9日

『文部省往復 明治十年分 四冊之内丁号』より

大森貝塚の発見で有名なエドワード・モースがアメリカに一次帰国した際に、給料を前渡しすることが書かれた文書です。

・〔ビラ〕 たたかひの原点に立ち戻れ！

1968（昭和43）年9月5日

『最首悟関係資料』より

■ こんなときにご利用ください

東京大学に関する歴史を調べたいときには、このデジタル・アーカイブ上から資料を探してみてください。デジタル化されていない資料も多くありますが、目録はすべて公開されていますので、実物をご覧になりたい資料があれば文書館の閲覧室までぜひお越しください。

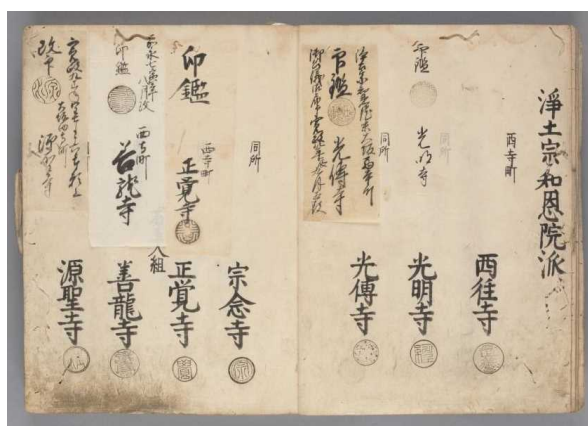


概要

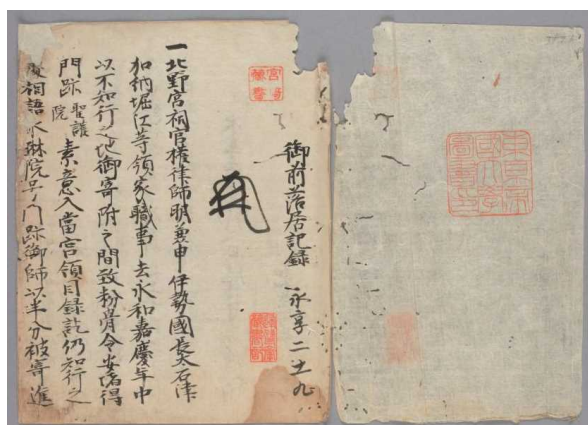
・公開画像点数：5点

・公開日：2007（平成19）年7月20日
・2018（平成30）年10月1日からIIIFで
リニューアル公開

法学部研究室図書室法制史資料室では、歴代の法制史講座担当教授が収集した法制史に関する資料数千点を所蔵しています。近世の幕府や諸藩の法令・裁判関係記録の原本・写本類を中心に、古代から近代初頭にわたる法制史に関する資料を所蔵しており、これらの資料の中から、貴重なものをピックアップしてデジタル化して公開しています。



大坂町中江出寺請状諸宗寺々
五人組判形帳



御前落居記録

■ データベースのポイント！

一部資料について、翻刻テキストも公開しており、本文の検索も可能です。

■ 公開画像の紹介

・大坂町中江出寺請状諸宗寺々五人組判形帳

江戸時代、大坂町々に配布された寺院の印鑑簿。寺院の改称・改印を貼紙などで修訂していますが、他町に伝来した同種異本と比較すると修訂に精粗異同が見られます。

・御前落居記録

室町幕府第六代将軍足利義教のもとで審理され義教自身が決裁の花押を据えた訴訟案件の記録原本。冒頭部に捺された蔵書印は伝来過程解明の手がかりとなります。

■ こんなときにご利用ください

原本を撮影した画像からでないと読み取れないテキスト本文以外の蔵書印や筆跡等の情報の確認や、他に伝存している版との比較研究にご活用下さい。また、古文書解読のセルフラーニングにもご活用いただけます。



概要

・公開画像点数：518点

・公開日：2018（平成30）年10月11日

明治、大正、昭和の時代を生き抜き、数多くの出版物を残した明治新聞雑誌文庫初代主任、宮武外骨の手稿、蒐集したパンフレット類を中心として整理された資料群です。主任就任後に宮武外骨が行った新聞・雑誌の蒐集旅行の記録や、獄中日記、原稿の下書きなど手稿類に加え、パンフレット類、絵葉書、膨大な数の切り抜きなどのほか、文鎮など立体物も含まれています。



獄中記念物

■ データベースのポイント！

獄中などで製本技術を得た宮武外骨は凝った外箱や装丁を得意とし、自ら装丁した資料が多く残っています。これら外装も立体で撮影することで、外骨の世界観が伝わるようにしました。

また「東北旅行日記」で宮武外骨が「熱望」と記載した『東洋自由新聞』など、明治を知るうえで重要な新聞2タイトルも近日公開されます。新聞は日付からの検索が容易にできる画面を作成予定です。

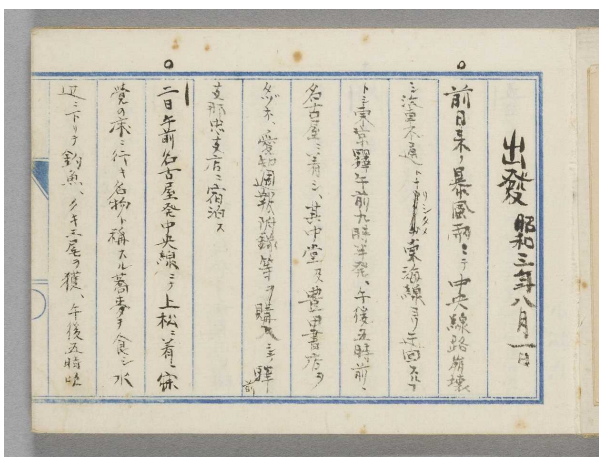
■ 公開画像の紹介

・獄中記念物

筆禍で4回入獄した宮武外骨が、密かに持ち帰ったメモや物品を「獄中記念物」として後にまとめたものです。獄中で雑誌発行を企てた際の広告など、出版人としてのユーモアと意地が見られます。

・東北旅行日記

明治新聞雑誌文庫主任となった外骨が新聞・雑誌を更に蒐集するため出張した際の記録です。出版人であった外骨の、新聞社・古書店・蒐集家らとの人脈を活かした資料蒐集の過程が窺えます。



東北旅行日記

■ こんなときにご利用ください

関東大震災により多数焼失、散逸した明治大正期の新聞・雑誌を蒐集、保存、公開するため、宮武外骨や東京帝国大学法学部教授吉野作造らにより明治新聞雑誌文庫が設置されました。新聞・雑誌はその時代を映すかがみであり、稀代の蒐集家外骨が分野を問わず集めた資料から明治・大正という時代を多面的に知ることができます。



概要

・公開画像点数：142点

・公開日：2019（平成31）年2月5日

網走市史跡モヨロ貝塚は、5～12世紀のオホーツク海南岸地域に展開していた「オホーツク文化」を代表する遺跡です。1947（昭和22）・1948（昭和23）・1951（昭和26）年に行われた発掘調査は考古学史に残る有名なもので、人文社会系研究科附属常呂実習施設にはその様子を記録したガラス乾板200点が所蔵されています。本アーカイブではそれらのうち、今回が初の公開となる画像を含んだ142点を公開しています。



モヨロ貝塚 10号縦穴 炉址の調査の様子

■ デジタルアーカイブのポイント！

戦後すぐに行われたモヨロ貝塚の調査では第一級の資料が得られていましたが、記録に不十分な点も多く、その成果は後の研究にあまり活かされてきませんでした。

このアーカイブでは、高精細なスキャン画像をスムーズに拡大・縮小しながら閲覧できるようにしており、当時の発掘の内容を以前より容易に、また詳細に検討することが可能です。



モヨロ貝塚 7号縦穴 クマ頭骨の「骨塚」

■ 公開画像の紹介

・10号縦穴 炉址の調査の様子

縦穴住居跡の発掘調査の様子を撮影した写真。住居跡の中央部にある炉の跡を発掘しています。

1948（昭和23）年撮影。

・7号縦穴 クマ頭骨の「骨塚」

縦穴住居跡内に残る「骨塚」。住居内部にクマの頭骨を配置した祭壇状の遺構で、オホーツク文化にクマを祀る儀礼が存在していたことを示しています。

1947（昭和22）年撮影。

■ こんなときにご利用ください

このアーカイブには、オホーツク文化の遺跡を紹介する際に必ず取り上げられる画像が多数含まれており、概説書や博物館の展示などに多くの採用実績があります。画像はモノクロですが、細部の精細さは最近の調査の画像に勝るとも劣らないため迫力があり、北方地域の考古学を紹介する際には極めて有用です。

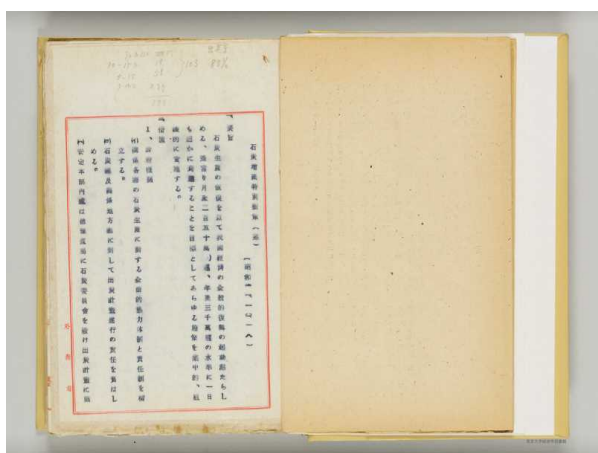


概要

・公開画像点数：6,000件

・公開日：2015（平成27）年12月24日

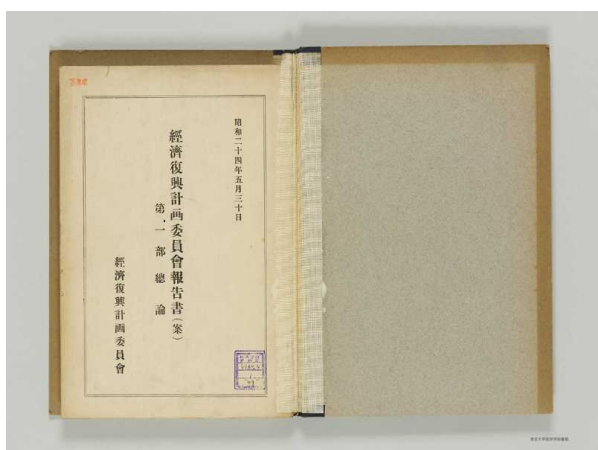
東京大学経済学図書館が所蔵する社会経済関係資料の目録やデジタルアーカイブの検索サイトです。経済学図書館がこれまで収集してきた、貴重資料や特別資料が検索できます。近年は特に企業を取り巻く様々な資料（経営資料、労働資料、企業や経済に関わる国の政策決定資料）を公開することに主眼を置いています。



「石炭増産特別対策（案）」（有沢資料
『「傾斜生産」関係資料』3所収）

■ デジタルアーカイブのポイント！

詳細検索の「資料区分欄」からは、企業資料、労働資料、古典籍、審議会等資料などのカテゴリーで資料対象を絞り込むことができます。同じく「データ形式欄」にチェックを入れることで、デジタルアーカイブの存在するメタデータのみを検索対象とすることができます。また画像は文書の閲覧に特化したJPEG2000をPDF化してもので、全てA4での印刷に適した縮尺となっています。



『経済復興計画委員会報告書（案）』
（政策決定関係資料）

■ 公開画像の紹介

左に挙げる資料はいずれも、戦後日本の復興政策を立案する審議会等における検討段階の資料で、わが国の経済政策の決定過程を知り得るものと言えます。上段の「石炭増産特別対策（案）」【有沢資料】は石炭と鉄にヒト・モノ・カネを集中配分した傾斜生産方式の立案過程の資料、下段の『経済復興計画委員会報告書（案）』【政策決定関係資料】は経済復興の青写真を描いた『経済復興計画委員会報告書』の素案です。

■ こんなときにご利用ください

- ・社会経済に関する日本の古典籍を探したい。
- ・国立公文書館や国立国会図書館では見当たらない資料を探したい。
- ・一般的な刊行物からではわからない、政府の政策立案や企業の経営戦略などの意思決定過程の資料を探したい。



概要

・公開画像点数：約820点

・公開日：2010（平成22）年3月31日

「日本海志」編纂のために収集された水軍・造船・海運等に関わる資料から構成される貴重資料で、戦後海軍省の海軍文庫から東京大学に移されたものです。水軍書や木割書・図面等の造船関係資料の充実は他に類例がなく、また、秘伝書及び各種船の図面の原本が多数まとまっています。



『関船之書物』

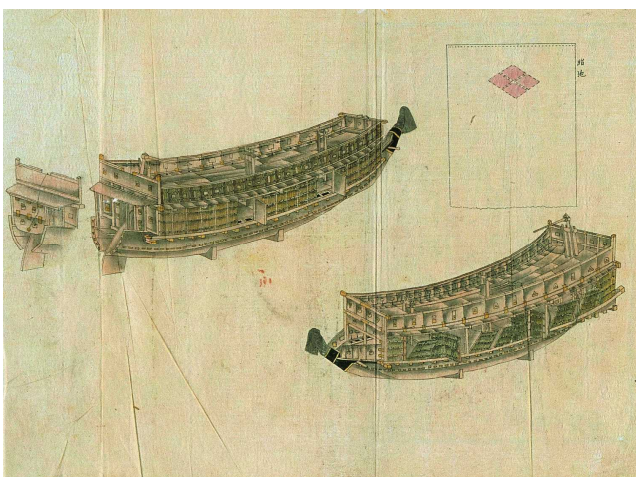
■ データベースのポイント！

タイトル検索だけでなく、分類別に表示させているため、特別な知識がなくても、必要な史料を探せるようになっています。大日本海志編纂資料だけでなく、駒場図書館の所蔵する海事関連資料をまとめてみることで便利です。

■ 公開画像の紹介

・『関船之書物』第二 [7-1-22] 原本

延宝3年（1675年）の唐津流関船の木割書。全10巻のうち3巻を欠いていますが、この時期にこれだけ充実した木割法を確立していたことがわかる点で重要な資料です。



『武田氏軍艦雛形之図』

・『武田氏軍艦雛形之図』 [7-3-32] 写本

八王子信松院に武田氏の遺臣が納めた関船雛形の絵。この雛形は関船の構造を具体的に知ることができる唯一のものです。

■ こんなときにご利用ください

和船の歴史だけでなく、近世から近代日本の黎明期にかけての水運、外交、軍事などの資料がまとまっています。幕末から明治にかけての洋式帆船や蒸気船などの絵図も必見です。

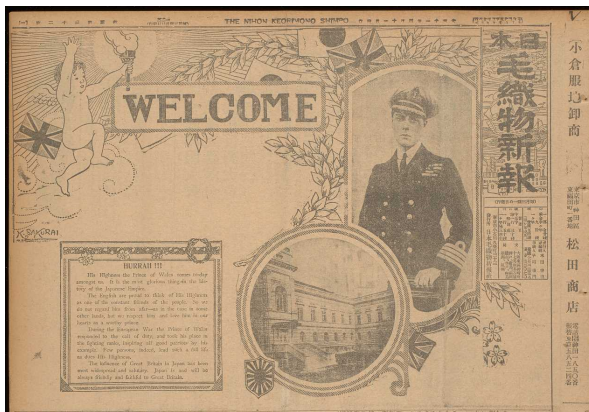


概要

・公開画像点数：約15,000点

・公開日：2018（平成30）年11月1日

情報学環附属社会情報研究資料センターのデジタルアーカイブ・システム「Digital Cultural Heritage」では、2018（平成30）年のリニューアル以前から公開していた4資料群（小野秀雄関係資料、外務省関係資料、坪井家関係資料、森恭三コレクション）の目録データと一部画像データを継承して公開しています。また、当センター所蔵の新聞原紙をデジタル化し、公開する事業が新たに進行中です。



日本毛織物新報332号（1922/04/11）

■ データベースのポイント！

「公開コンテンツ概要」ページから、各資料群のメタデータをダウンロード可能とするなど、単なる画像公開に留まらず、APIやデータセットの提供といった第三者や計算機による二次利用を支援する機能提供も行っています。



EAT LESS

■ 公開画像の紹介

・日本毛織物新報332号（1922/04/11）

毛織物を扱う洋服業界の業界紙。紳士服の聖地である英国からエドワード皇太子が来日した際の記念記事です。

・EAT LESS

第一次世界大戦プロパガンダポスター。U.S Food Administrationによる、節約や食物増産を喚起するポスターのひとつです。暖かな色の多用が目を引きます。

■ こんなときにご利用ください

かわら版、錦絵、ポスター、新聞等、さまざまな時代のメディアに触れてみたい、読んでみたいという時にご活用ください。

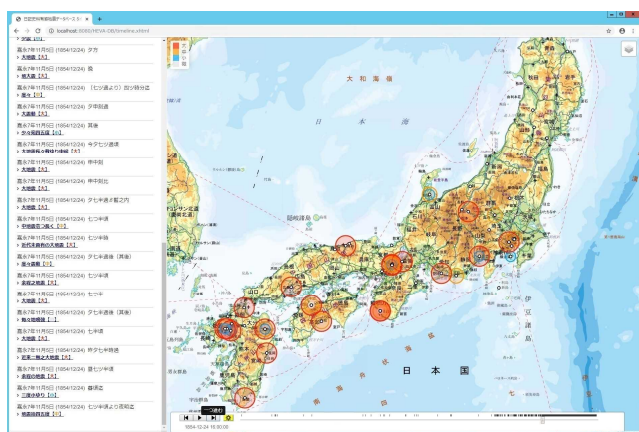


概要

・登録データ件数：3,376件

・公開日：2018（平成30）年10月2日

日記史料は、現象と同時期に記されたために記述内容の信憑性が高く、記述された年月日と場所を特定でき、長期間にわたり同一人物が記述していることから、連続して安定した情報が得られます。本データベースでは、連続記録である日記史料に記されている地震や天気などの自然現象に関する記述をテキストデータ化し、複数の日記史料データに基づいて、19世紀中頃の日本列島における有感地震の時空間分布図を作成しています。



有感地震の時空間分布図

■ データベースのポイント！

本データベースでは、日記史料に記されている有感地震など自然現象のテキストデータに時間情報を組み込み、日記史料が記された場所の位置情報を付与しているために、有感地震の時空間分布を図示できます。また、有感地震の発生時間が一定の範囲内にある日記史料データを表示するシステムを作成しており、複数の日記史料にある有感地震の同定に活用できます。

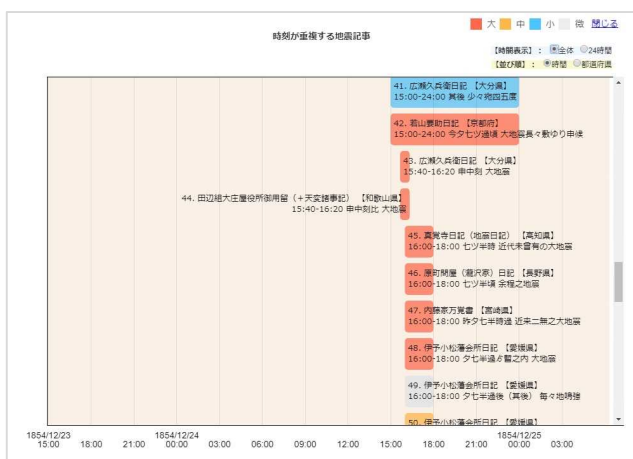
■ データベース機能の紹介

・有感地震の時空間分布図

本データベースに基づいて作成された時空間分布図では、日記史料に記されている有感地震の場所と大きさが表示され、その時間変化と空間変化を視覚的に把握できます。

・有感地震の発生時間のグラフ表示

有感地震の発生時間が重なっている日記史料データをまとめて表示できる機能を有しており、空間的に広範囲に及ぶ有感地震の発生時間を絞り込むことができます。



有感地震の発生時間のグラフ表示

■ こんなときにご利用ください

現時点での日記史料データは約40地点分であり、19世紀中頃に日本列島で大きな被害地震が多発した4年間分を集中的にデータ化しているために、大地震発生前後の地震活動の変化や、地震活動の地域的な相違について概観できます。また、機器観測だけでは不可能な前近代の日本列島における長期的な地震活動の解明に寄与できます。

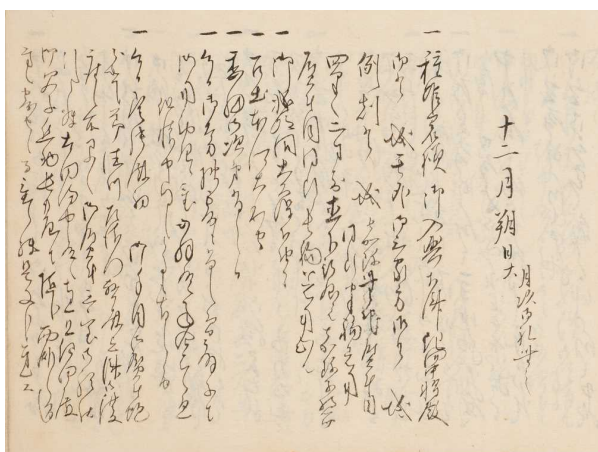


概要

・公開画像点数：22,727点

・公開日：2018（平成30）年11月28日

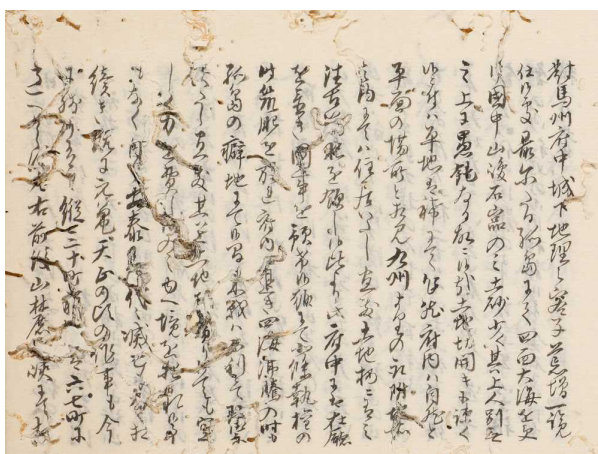
備後福山阿部家史料は江戸時代中後期（1710～1867）に備後福山藩（現広島県福山市）10万石の藩主であった阿部家が残した古文書です。阿部家の歴代当主は老中・所司代・寺社奉行など、江戸幕府の主要な役職に就任したため、本史料群は江戸時代の政治・社会を研究するうえで、基礎的かつ重要な史料と言えます。老中・寺社奉行を勤めた際の職務日記や幕末期の風聞書（噂を収集した記録）などを多彩な史料を含みます。



02-016「月番 加判列覚」

■ 史料のポイント！

この史料は江戸時代に作成された古文書原本であるため、現物を閲覧する際には、専門的な教育を受けた上で、細心の注意を払う必要があります。デジタル画像となったことで、誰でも手軽に閲覧できるようになりました。古文書なので、くずし字で記されていますが、史料編纂所ホームページでは「電子くずし字字典」も公開されているので、文字を調べながら読み進めていくことができます。



07-088「対州二而見及候趣申上候覚」

■ 公開画像の紹介

・02-016「月番 加判列覚」

老中阿部正倫の職務日記（老中日記）の天明7年（1787）12月1日条の冒頭部分です。10代將軍徳川家治養女種姫と和歌山藩主嫡子徳川治宝との縁組みなどについて記されています。

・07-088「対州二而見及候趣申上候覚」

文化4年（1807）に作成された対馬藩（現長崎県対馬市）の地理・社会・文化についての探索書です。文化8年（1811）に実施された朝鮮通信使の易地聘礼に向けた準備資料と考えられます。

■ こんなときにご利用ください

良質かつ豊富な内容を持つ史料群なので、政治史・法制史・経済史などの歴史系諸分野の最先端研究において活発に利用されることを期待しています。また典型的な江戸時代の幕政関係史料であり、文字も非常に丁寧に書かれている物が多いので、古文書初学者の入門教材としても最適です。

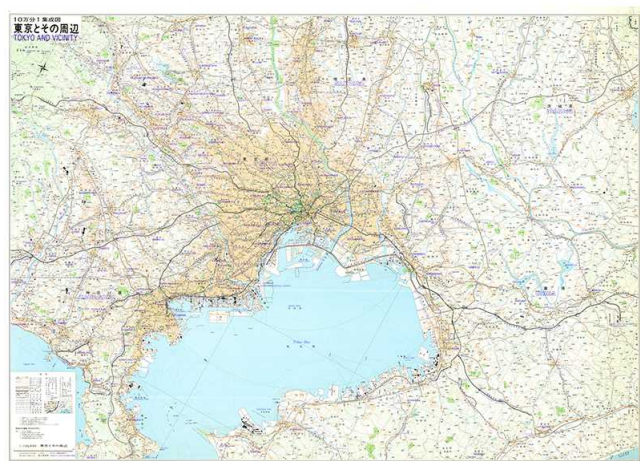


概要

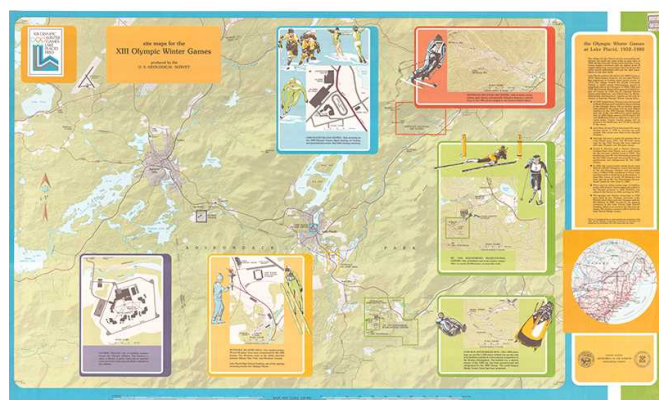
・公開画像点数：70点

・公開日：2018（平成30）年11月30日

東京大学柏図書館に所蔵されている紙地図の、高解像度デジタル画像とメタデータを閲覧できます。国際地図・地理展（1980（昭和55）年・東京）のために収集された世界各国の地図を閲覧できるデジタルアーカイブです。



10万分1集成図 東京とその周辺
国土地理院、1980（昭和55）年8月15日発行



site map for the XIII Olympic Winter Games
U.S. Geological Survey, 1979

■ デジタルアーカイブのポイント！

紙地図の高解像度デジタル画像を、高速に表示でき、地図を拡大して細かい文字や線もはっきり読むことができます。地図を一覧リストから選択して表示できるため、さまざまな地図を探したり眺められるので便利です。地図をメタデータから検索して表示する機能も備わっており、地図のタイトル・縮尺・国・発行元などから検索できます。

■ 公開画像の紹介

・10万分1集成図 東京とその周辺

1980（昭和55）年発行の東京とその周辺の地図です。東京湾の埋め立てや羽田空港や鉄道など、当時まだ開発途上であり、現在と比べてみると様子が異なることがわかります。

・site map for the XIII Olympic Winter Games

1980（昭和55）年にアメリカで開催された冬季オリンピックの地図です。競技ごとのエリアが等高線で示されています。背景になっている広域の地図は、数値標高モデルを使って、コンピュータで作画された陰影起伏図です。

■ こんなときにご利用ください

柏の葉紙地図デジタルアーカイブでは、1970年頃～1980年頃の紙地図がデジタルアーカイブ化されています。地図や地理の資料として活用いただけることと思います。また、当時の地図の表現や製図技術も垣間見ることができます。新たな発見や活動につなげて下さい。